

行くこと數町ならずして、忽ち前路に十數頭の狼群を見る。彼等は昨夜來斃馬の肉を齎りつゝ、夜の明くるをも知らず尙ほ飽食せんとせしに、俄然予が一行人馬の音に驚き周章して幽谷に奔り去り、忽ち姿を匿したりき。狼狼とは是等をこそ云ふらめ。蓋し此山中を通過する「キャラバン」は拂曉の冷氣酷烈なるを避くる爲め、通常午前九時前後に發程するを例とせり。然るに是日は前程遠く、且呼吸促逼の爲め行進の遲滯するを慮り。例に反して早朝出發せしが故に、斯く狼群を驚かせしなり。

是日より右折南行し、アクスタークを距る一里弱の處にて桑珠^{サンジュウ}道路と相合せり。河谷は急に一千乃至四千米突間に擴がり、前日來の狹谷は一變細沙の廣谷を現じ、左右の山々、又丘阜狀と爲り、層巖危石、竦峙錯列、間々危峯の雪を戴く有りて、奇怪萬狀、神工鬼鑿の妙を極め、柳州を地下に喚起するも恐くは其眞景を寫す能はざらん。雄大奇絶の風光は、之を我國內に求むるも、到底得べからざるもの有り、雖も如何せん空氣の稀薄は、著しく頭痛を感せしめて、景色を賞し、風光を愛せしむるの念を奪却し盡せり。